

# 道総研における研究開発の基本構想の概要

平成24年8月  
地方独立行政法人北海道立総合研究機構

## ○第1章 基本構想の位置づけ

- ・平成22年4月 地方独立行政法人「北海道立総合研究機構」発足（以下、「道総研」という。）  
（道立の22試験場を統合）
- ・道が中期目標（H22年度～26年度）を決定
- ・道総研は中期計画（H22年度～26年度）を策定し法人運営
- ・研究開発の長期的な将来像とその実現に向け主体的に考えていくことが重要との認識
- ・道における次期中期目標の検討や次期中期計画の策定に資するため、道総研の考え方を明らかにする
- ・今後のおおむね10年間で、目標や視点と研究開発の推進方向をとりまとめたものである

## ○第2章 現状認識

- |  |  |
|--|--|
| <b>1 時代の潮流と北海道</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・グローバル化の進展</li><li>・人口減少・高齢化の進行</li><li>・深刻化する地球環境・食料・エネルギー問題</li></ul> | <b>2 道総研を取り巻く環境</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・道総研として一体的に管理運営</li><li>・分野横断型の研究の重点的に推進</li><li>・「選択と集中」の観点に立って重点的に取り組む研究開発</li></ul> |
|--|--|

## ○第3章 基本理念（平成22年4月決定）

## ○第4章 目標

- ・自立的な経済活動が展開される社会の実現
- ・安全で持続可能な地域社会の形成
- ・環境・自然に配慮した社会の創造

## ○第5章 研究開発を推進するうえでの視点

- |   |  |
|---|--|
| <b>1 基本的な視点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・道総研による価値の創造</li><li>・道総研としての方向性の確立と内外との連携強化による総合力の発揮</li></ul> | <b>2 具体的な視点</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・先見性</li><li>・優位性（強みと特性）</li><li>・実用性</li><li>・波及性</li></ul> |
|---|--|

## ○第6章 道総研の総合力を発揮して取り組む研究開発の推進方向

- |  |
|--|
| <b>I：食料安定供給技術の確立と食関連産業の振興</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)食料安定供給技術の確立<ul style="list-style-type: none"><li>①農水産物の安定生産に関する技術開発<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)農産物の新品種開発、安定生産技術の開発（小麦品種開発、低コスト安定生産）</li><li>(イ)乳牛・肉用牛の生産技術の開発（自給飼料）</li><li>(ウ)資源管理・増養殖技術の開発（沿岸環境情報、コンブ安定生産）</li></ul></li></ul></li><li>(2)市場競争力を有する食関連産業の振興<ul style="list-style-type: none"><li>①市場競争力の強化に関する技術開発<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)評価技術と利活用技術の開発（ブランド化）</li><li>(イ)品質・鮮度保持技術開発（鮮度保持）</li></ul></li></ul></li></ul>                                 |
| <b>II：再生エネルギー等の安定供給システムと省エネルギー技術体系の構築</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)再生可能エネルギー等の安定供給と利用拡大<ul style="list-style-type: none"><li>①安定供給システムの構築<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)資源の賦存量等の把握・評価（賦存量）</li><li>(イ)エネルギー資源の多様化に関する研究（高度利活用、供給システム）</li></ul></li></ul></li><li>(2)省エネと高効率エネルギー需給システム構築<ul style="list-style-type: none"><li>①生活・産業の省エネ技術の構築<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)生活・産業の省エネ技術（省エネ）</li></ul></li><li>②エネルギー供給・利用グランドデザイン<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)エネルギー需給戦略（利用モデル構築）</li></ul></li></ul></li></ul> |
| <b>III：自然・産業・生活が調和した安全で持続可能な地域の構築</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)持続可能な地域システムの構築<ul style="list-style-type: none"><li>①地域資源の活用による産業の振興<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)高齢社会における地域システムの構築・運営（集落の構築・運営、快適性維持、産業振興）</li></ul></li></ul></li><li>(2)地域機能維持による防災・減災に関する研究<ul style="list-style-type: none"><li>(ア)防災・減災に関する研究（被害想定・軽減）</li></ul></li></ul>   |

## ○第7章 各研究分野の特性を生かしながら取り組む研究開発の推進方向（別紙参照）

- |  |  |
|--|--|
| <b>1 農業分野</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興</li><li>(2)環境と調和した持続的農業の推進</li><li>(3)地域の特色を生かした農業・農村の振興</li></ul> | <b>4 産業分野</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)持続可能な地域づくりを支える本道産業の振興</li><li>(2)成長力を持った力強い食関連産業の振興</li></ul> |
| <b>2 水産分野</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)地域を支える漁業の振興</li><li>(2)水産物の安全性の確保及び高度利用の推進</li><li>(3)自然との共生を目指した水産業の振興</li></ul>         | <b>5 環境・地質分野</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)生活・産業基盤を支える環境の保全、災害の防止及び地質資源の活用</li></ul>                  |
| <b>3 森林分野</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)森林資源の循環利用による地域産業の振興</li><li>(2)森林機能の高度発揮とみどり資源の活用による道民生活の向上</li></ul>                     | <b>6 建築分野</b> <ul style="list-style-type: none"><li>(1)暮らし・地域・環境を育む建築・まちづくりの実現</li></ul>                             |

(1) 豊かな食生活を支える農業及び食関連産業の振興

① 豊かな食生活を支える農業及び食関連産業を振興するための技術開発

(7) 競争力の高い品種と良質・低コスト安定生産技術の開発

- 病虫害や気象災害に強く、生産性・加工適性に優れた水稻品種と水田利用技術の開発
- 病虫害や気象災害に強く、生産性・加工適性に優れた小麦・豆类・馬鈴しょの品種開発
- 畑作物の低コスト・安定多収生産技術体系の確立
- 野菜の安定生産技術と品種の開発
- 果樹・花きの安定生産技術と果樹品種の開発
- 高品質多収な牧草・飼料作物の品種と安定生産技術の開発
- 自給飼料に立脚した乳牛の飼養管理技術の開発
- 北海道型肉用牛の改良と飼養管理技術の開発

(4) 消費者と食関連産業のニーズに応える安全で良質な農産物生産技術の開発

- 農産物の品質や加工適性等の評価法と品質保持技術の開発
- 有害物質を蓄積させない安全な農産物生産技術の開発
- 家畜感染症と人獣共通感染症の診断・予防技術の開発

(9) 実用技術の開発を促進するための先端的・基盤的技術の開発

- 遺伝子解析とDNAマーカー選抜技術の開発
- 品種開発を支える有用な遺伝資源の管理と活用

(2) 環境と調和した持続的農業の推進

① 環境と調和した持続的農業を推進するための技術開発

(7) 消費者ニーズに応えるクリーン農業・有機農業を推進するための試験研究

- クリーン農業を推進するための減化学農業・減化学肥料栽培技術の開発
- 有機農業を支援するための技術の開発

(4) 環境と調和し持続性の高い農業を支援するための試験研究

- 農地の生産環境保全技術の開発
- 再生可能エネルギー及びバイオマス資源の有効活用・管理技術の開発

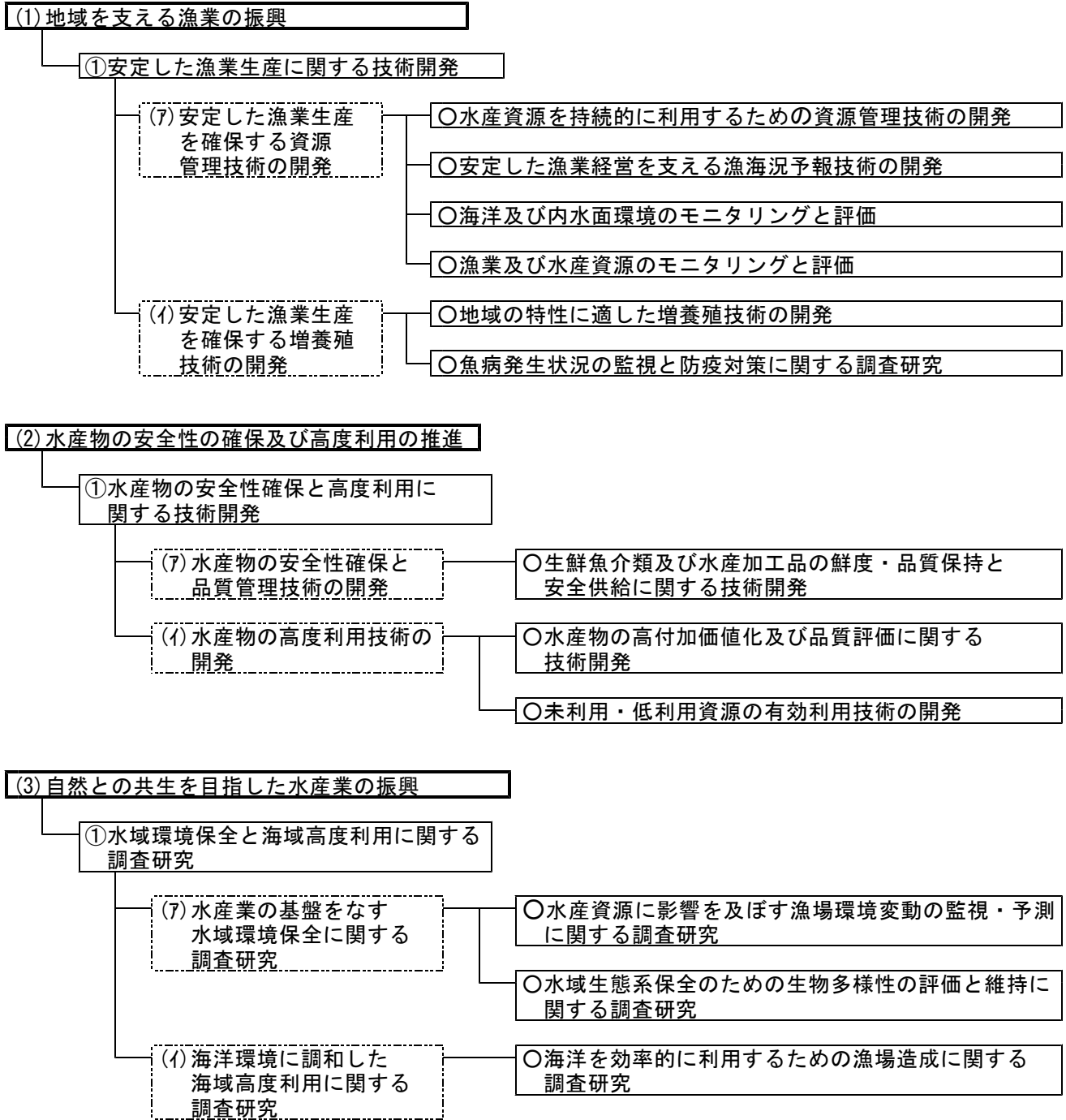
(3) 地域の特徴を生かした農業・農村の振興

① 地域の特徴を生かした農業・農村を振興するための技術開発

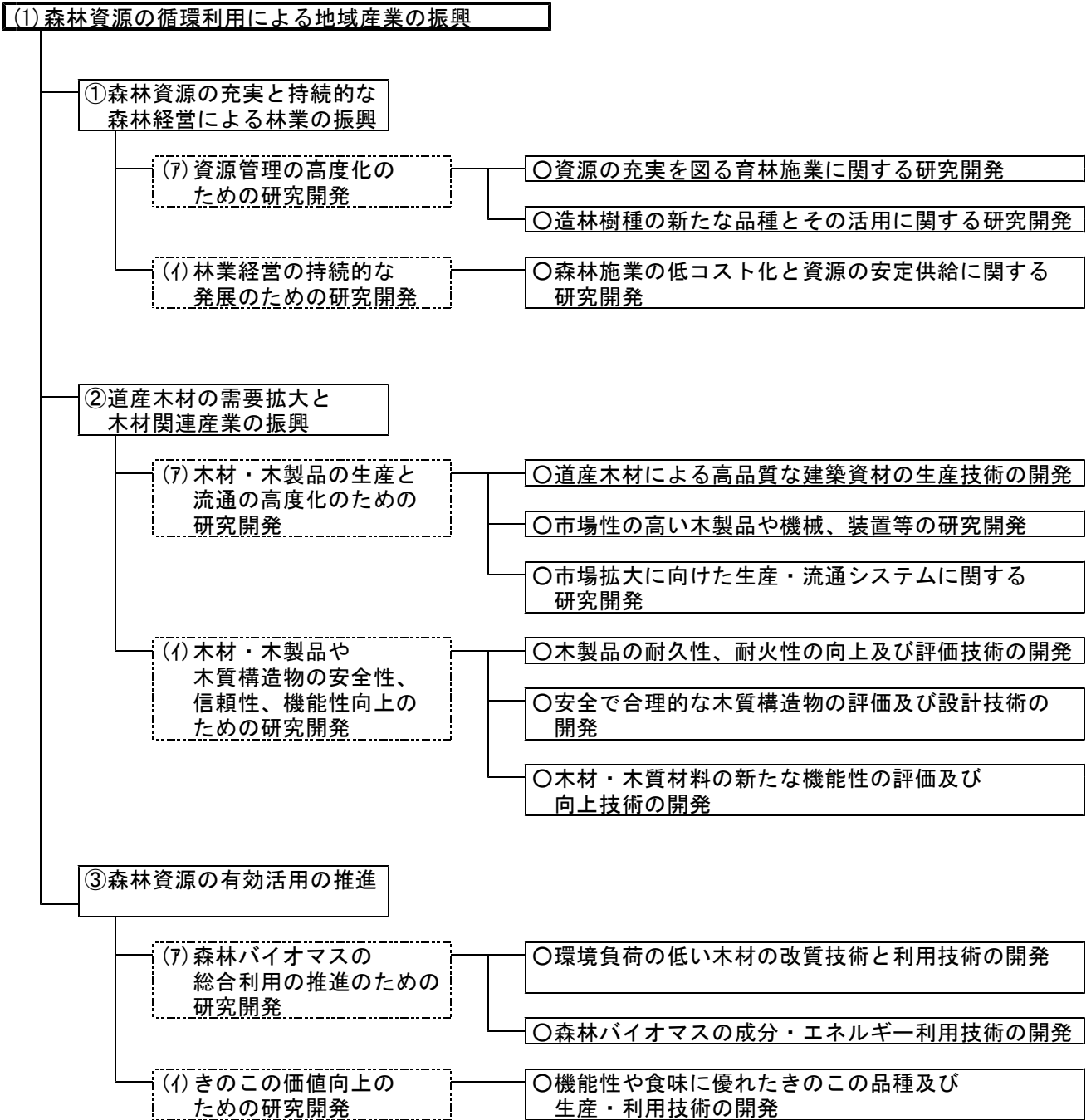
(7) 地域農業・農村の発展・振興を支援するための試験研究

- 地域農業の振興・課題解決を目指した技術開発と営農方式の確立
- 農業資材の実用性評価

【Ⅱ 水産分野の特性を生かしながら取り組む研究開発の柱及び推進項目：体系図】



【Ⅲ 森林分野の特性を生かしながら取り組む研究開発の柱及び推進項目：体系図】



(2) 森林機能の高度発揮とみどり資源の活用による  
道民生活の向上

① 豊かな道民生活のための  
森林機能の高度発揮

(ア) 森林の公益的機能の  
発揮のための研究開発

○ 森林の公益的機能の解明と造成手法に関する  
研究開発

○ 道民の生活を守る自然災害軽減技術に関する研究開  
発

(イ) 生物多様性に配慮した  
豊かな森林を保全・  
維持するための研究開発

○ 生物多様性に配慮した森林の維持・管理に関する  
研究開発

○ 森林・樹木の病虫害獣害防除に関する研究開発

② 生活環境の向上のための  
みどり資源の活用

(ア) 身近なみどり資源の  
活用のための研究開発

○ 高い価値を持つ緑化樹等の新品種や生産技術の開発

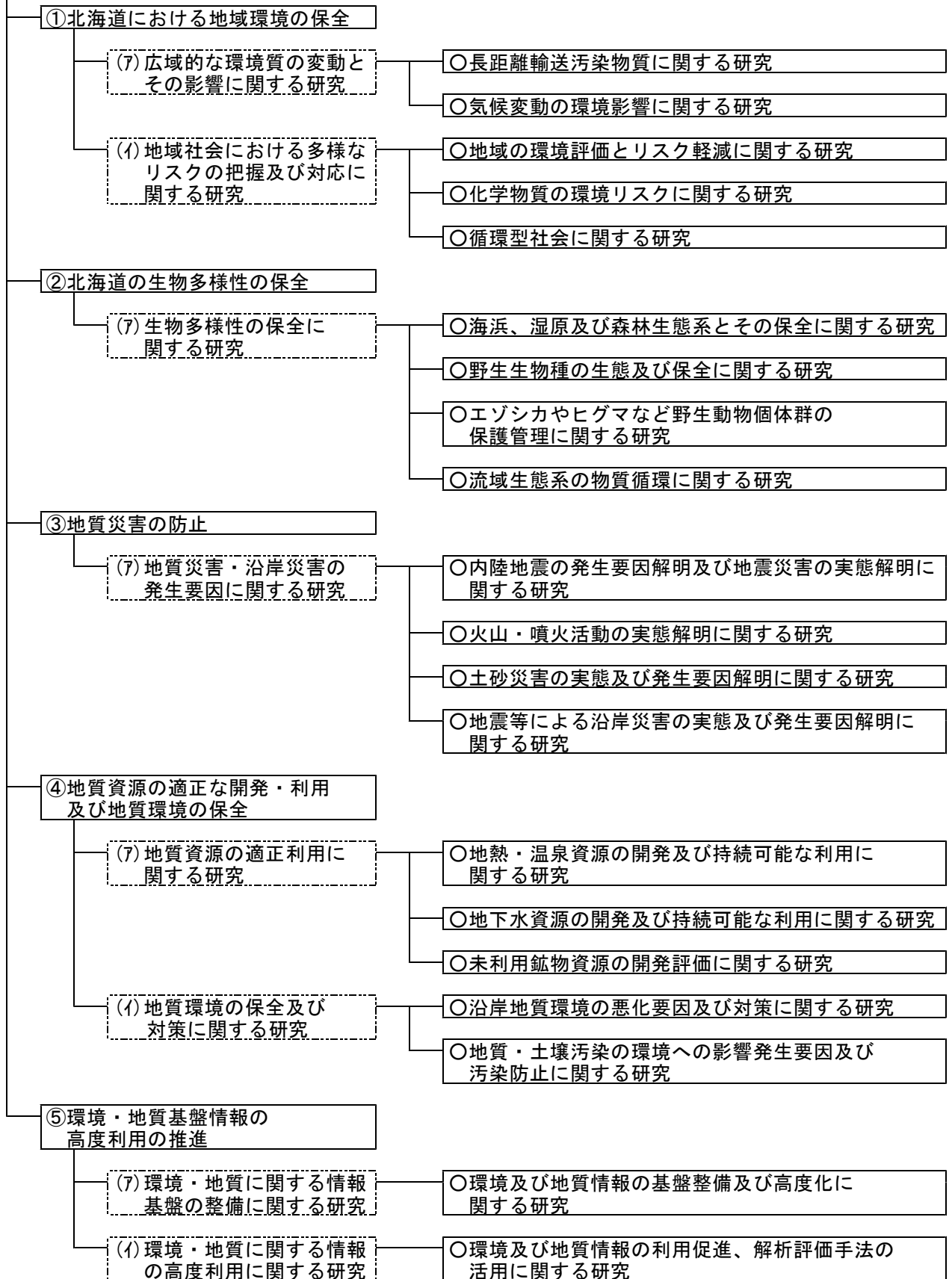
○ 北国の環境に適した緑化技術や維持管理技術の  
開発

【IV 産業技術分野の特性を生かしながら取り組む研究開発の柱及び推進項目：体系図】



【V 環境・地質分野の特性を生かしながら取り組む研究開発の柱及び推進項目：体系図】

(1) 生活・産業基盤を支える環境の保全、災害の防止及び地質資源の活用



【VI 建築分野の特性を生かしながら取り組む研究開発の柱及び推進項目：体系図】

